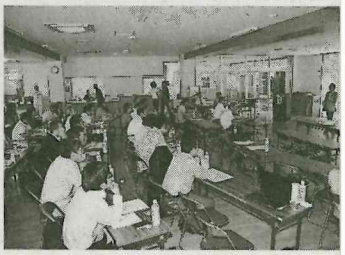
放射線技師らを対象に

放射線技師らを対象にした県ホールボディーカウンター（WBC）研究会は二十九日、平田村のひらたリハビリテーション・ケアセンターで開かれた。

福島医大放射線健康管理学講座の主催。WBCによる内部被ばく検査をより適切に実施できるよう、二月に続き催した。約七十人が出席した。



ひらた中央病院で九月から使う乳幼児用WBCの開発を進めている東京大大学院の早野龍五教授と東京大生産技術研究所の山中俊治教授が、機器の概要を説明した。この他、福島医大の関係者らが内部被ばく検査の現状などを報告し、出席者が意見交換した。

汚染土壌回収システム
日大工学部が開発
減容、保管技術 年度内に確立

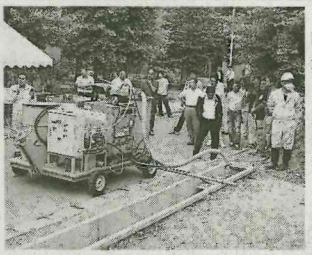
東京電力福島第一原発事故に伴う除染に活用するため、郡山市の日大工学部は側溝や農業用水池などにたまった汚染土壌を機械で回収するシステムを二十九日までに開発した。民間企業と連携し、回収した土壌を水分と土に分けて減容化するシステムと、土の保管容器の管理システムまで一連の技術を平成二十五年度内に確立させる。

同日、同大で汚染土壌回収技術に関する説明会が開かれた。開発されたシステムでは、作業者が汚染土壌に直接手を触れずに機械を使って迅速に回収できる。回収後は水分に含まれる細かい土壌を吸着して沈降させる凝集沈降剤を入れ水分と土に分ける。同大によると、水分にはほとんど放射性物質が含まれない状態になるため、側溝などの洗浄に再利用できる。

耐久性と気密性が高い容器を開発し、土を保管する。容器を適切に管理する方法を研究し、除染開始から放射性廃棄物の保管まで一体的に進めることができるようにする。

日大工学部と民間企業のセベック・エネルギー&ライフ（東京都）の主催で、説明会には建設会社などから約五十人が参加した。

官公庁を対象にした説明会は七月二日午後一時から同大で開かれる。



側溝の土壌を回収する仕組みが紹介された説明会

帰還困難区域への一時帰宅
（29日）

	世帯数	人数	個人の積算放射線量
富岡町	19	44	1～8マイクロシーベルト
大熊町	44	106	2～26マイクロシーベルト
双葉町	34	83	1～26マイクロシーベルト
浪江町	17	40	0～20マイクロシーベルト

放射線 放射性物質 Q&A

物質の現状は

は半分以下 考えにくい

東京電力福島第一原発事故から二年三カ月余りが経過しました。放射性物質の半減期を考慮する上、事故で

回答者

県放射線健康リスク管理アドバイザー
長崎大教授
高村 昇さん

原発事故で放出された放射性物質のうち、約九割が放射性ヨウ素で、残りの約一割が放射性セシウムでした。半減期が約八日間と短い放射性ヨウ素が現在検出されることはありません。

セシウム134は約二年であるため、事故から二年以上が経過した現在では、セシウム134は半分以下に減少し、それに比べてセシウム137はあまり減少していません。

昨年十二月、長崎大が川内村のどの地域でも原発事故当初に放出された放射性セシウムが同じように存在していることを示しています。つまり、事故後に時間が経過してから新たに原発から放出された放射性セシウムはほぼないと考えられます。

セシウム134とセシウム137の濃度の比率は、川内村のどの地域で採取した土壌でもほぼ同じでした。これは、どの地域でも原発事故当初に放出された放射性セシウムが同じように存在していることを示しています。つまり、事故後に時間が経過してから新たに原発から放出された放射性セシウムはほぼないとい

県内死者・行方

※人数は29日午後5時現在。合計は死者が県、行方不明者が県警の発表。市町村別は県の発表。行方不明者の合計と市町村別の人数は一致しない。直接死は地震や津波での死者、関連死は避難途中や避難先などで死亡認定された死者。死亡届等は、遺体が見つかっていないが、死亡届が出されている人や災害弔慰金の支給対象となった人。

	直接死	関
福島市	6人	
伊達市	—	
国見町	1人	
大玉村	—	
郡山市	1人	
須賀川市	9人	
田村市	—	
鏡石町	—	
石川町	—	
三春町	—	
白河市	12人	
西郷村	3人	
会津若松市	1人	
相馬市	439人	
南相馬市	525人	4
広野町	2人	
楢葉町	11人	
富岡町	18人	1
川内村	—	
大熊町	11人	
双葉町	17人	
浪江町	149人	2
葛尾村	—	
新地町	100人	
飯舘村	1人	
いわき市	293人	1
計	1599人	14

放射線量測定値
（単位は マイクロシーベルト／時間）

南会津町	南相馬市	いわき市 平
0.02～0.04	0.05	0.05～0.06
0.05	0.15	0.09
0.05	0.15	0.09
0.05	0.15	0.09
0.05	0.15	0.09
0.05	0.15	0.09
0.05	0.15	0.09

川俣町役場	伊達市小国
0.20	0.37
0.20	0.38

※測定場所は県北保健福祉事務所、郡山合同庁舎、白河合同庁舎、会津若松合同庁舎、南会津合同庁舎、南相馬合同庁舎、いわき合同庁舎、二本松市役所、田村市役所、飯舘村役場、川俣町山木屋駐在所。伊達市小国は伊達市小国ふれあいセンター。

線量測定結果
（午後5時現在「…」は調整中）

憩いの家 0.28
役所東和支所 0.34
ンター 0.24

桑折町消防団第1分団1部屯所 0.20
半田コミュニティセンター 0.31

田村行政センター 0.15
東山霊園 0.16
田村地域交流センター 0.23
中田行政センター 0.12
中田地域交流センター 0.13
西田埋立処分場 0.25
西田行政センター 0.28
日和田行政センター 0.42
富久山行政センター 0.23
富田行政センター 0.20
下水道管理センター 0.42
三穂田行政センター 0.31
郡山市役所 0.32
県農業総合センター 0.79

須賀川市
水道倉庫（七ツ石倉庫） 0.22
長沼支所 0.20
仁井田公民館 0.26
ムシテックワールド 0.12
岩瀬支所 0.31
浜田地域体育館 0.10
桙衝市民サービスセンター 0.26
前田川扇町公園 0.11
長沼浄水場 0.26
市民の森 0.09
須賀川市役所 0.12

田村市
大越行政局 0.10
滝根行政局 0.09
星の村ふれあい館 0.09
カブトムシ自然の森 0.21

農業集落排水 牧之内処理場 0.26
二岐駐車場 0.06

石川町
長生園 0.10
石川町役場 0.06
山橋自治センター 0.08

玉川村
福島空港 0.12
玉川村役場 0.07
玉川村役場須釜支所 0.11
旧四辻分校 0.10

平田村
道の駅ひらた 0.11
駒形集会所 0.10
打違内消防屯所 …
中倉一集会所 0.09
中倉二消防屯所 0.08
平田村役場 0.09

浅川町
浅川町役場 0.06
大草地区農業集落排水処理施設 0.10
里白石北部集会センター 0.08
山白石多目的研修センター 0.10

古殿町
田口集落センター 0.07
古殿町役場 0.10
消防団第2分団2部屯所 0.10
論田ふれあいセンター 0.14
越代のサクラ公園 0.17

柏野コミュニティーセンター前 0.25
西郷ダム 0.19
那須甲子少年自然の家前 0.13
県堀川ダム駐車場前 0.20
虫笠消防火の見付近 0.27
西郷村文化センター 0.25
上野原公園内 0.18
大黒屋旅館駐車場 0.13

泉崎村
泉崎村役場 0.13
関和久宿集会所 0.14
踏瀬公民館（新築予定地） 0.10

中島村
中島村役場 0.08
小針松崎地区農業集落排水処理施設 0.10

矢吹町
矢吹町役場 0.11

棚倉町
金沢内運動広場 0.12
強梨生活改善センター 0.14
近津運動広場 0.10
山田多目的集会施設 0.09
棚倉町役場 0.15
大梅多目的集会施設 0.09
山本生活改善センター 0.14
友好の森 0.21

矢祭町
上関河内健康ふれあい館 0.06

喜多方市
押切川公園 0.11
おぐに交流の郷 0.12
塩川総合支所 0.08
大田木浄化センター 0.10
ふれあいランド高郷 0.08
熱塩加納総合支所 0.09
いいでのゆ 0.14
入田付小根小屋分校 0.06

北塩原村
北塩原村役場 0.10
裏磐梯合同庁舎 0.11
早稲沢生活改善センター 0.09

西会津町
西会津町役場奥川支所 0.07
西会津町役場 0.05

磐梯町
磐梯町役場 0.09

猪苗代町
猪苗代町役場 0.07
長浜公衆トイレ 0.07
湖岸地区農業集落排水処理施設 0.10
達沢生活改善センター 0.08
関都駅前 0.06
上戸浜駐車場（県） 0.07
旧市沢小跡地 0.20
木地小屋集会所 0.11
酸川野集会所 0.09

会津坂下町
会津坂下町農村環境改善センター 0.12

只見町
上照岡教員住宅
只見町町下広場野球

南会津町
南会津町伊南総合支
宮里新屋敷
南郷総合支所
湯ノ花温泉交流セ
南会津町舘岩 会
道の駅たじま
南会津町舘岩 総
リゾートイン台鞍
高畑スキー場
南会津町舘岩岩下
ンター
びわのかげ運動公

相馬市
相馬市大野公民館
相馬市一般廃棄物
分場
相馬地方広域水道
蒲庭公会堂
相馬市役所玉野出
富沢公会堂前空き
相馬市東部公民館
東玉野農業研修施
相馬市飯豊公民館